

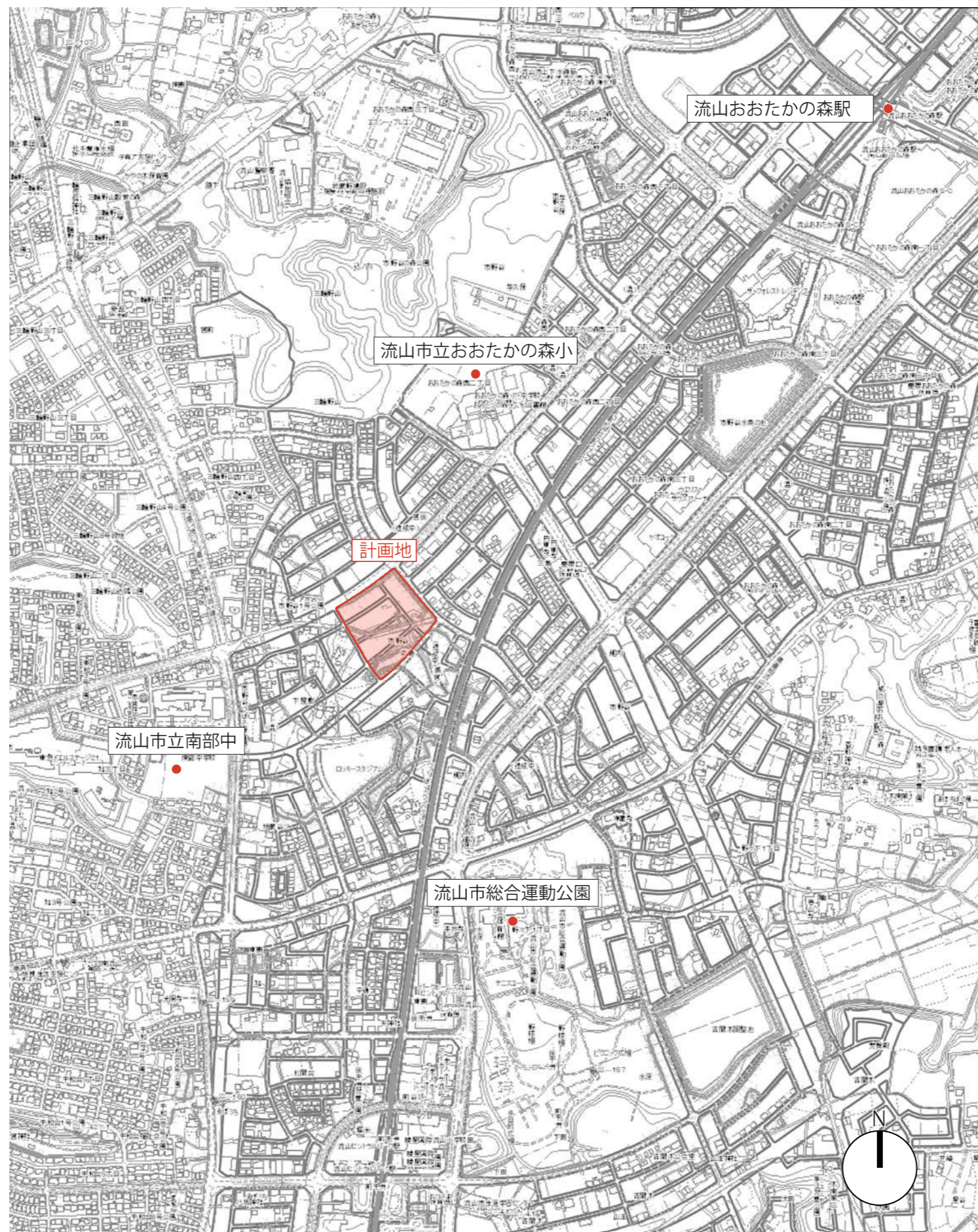
令和3年7月3日

(仮称) 流山市立市野谷小学校

の学校建設に係る説明会

次 第

- 一、 開会
- 二、 出席者紹介
- 三、 挨拶
- 四、 計画説明
- 五、 質疑応答
- 六、 閉会



案内図 S=1/10000

学校づくり通信 (仮称) 市野谷小学校

第一号 R2.10.22
流山市

市民参加型ワークショップ(第1回)のご報告

市野谷地区新設小学校の基本計画策定にあたり、市民参加型ワークショップを行いながら学校づくりを行います。第1回ワークショップ(以下WS)として、令和2年10月6日におたかの森センター会議室にて開催しました。当日は下記の内容で実施され、地区代表者、保護者代表者、有識者、学校関係者、事務局含め総勢 23 人の参加者より、市野谷地区新設小学校建設の趣旨の共有、新設小学校が目指す姿についての発表、議論が行われました。

WSの流れ

1. 市野谷地区新設小学校の基本計画策定に向けたWSの目的 (流山市)
2. 学校づくりについて (設計担当:(株)INA新建築研究所)
3. グループ討議 理想の学校についての話し合い
「地域の良いところ」「理想の学校」「新設小学校のタイトル」
4. グループごとに発表 (参加者)
5. まとめ・学校事例の紹介 (千葉工業大学 倉斗准教授)

WS開始!

WSは、有識者として全体ファシリテーターである倉斗准教授のご提案から、会場内の全員がマスクに笑顔の写真を貼り付けた和やかな雰囲気での始まりでした。まず、流山市学校施設課より今回のWSの目的や新設小学校建設予定地の概要について説明を行いました。



流山市によるWSについての説明

INAが取り組む学校づくりについて

新設小学校の設計を担当する(株)INA新建築研究所 中村氏よりこれまでの設計事例を紹介しながら学校施設づくりへの思いが伝えられました。その中では、地域ごとの特性に合わせて学校を計画することの大事さについて説明がありました。

グループ討議

A・Bの2グループに分かれ、一人15秒の自己紹介からグループワークが始まりました。三つのワークを行い、テーマに合わせ理想の学校について、それぞれの意見をワークシートに張り出しました。ワークごとの主要な意見は以下のとおりです。



各グループのワーク・発表の様子

ワーク① この地域の良いところは?

航空写真・古地図を見ながら地域の良いところについて意見を出し合いました。

主要な意見

- ・豊かな自然がある
- ・オオタカやキジ、昆虫など多くの生き物がある
- ・引っ越してくる人が多い
- ・まちがきれい
- ・歩道が広く、子どもを連れていても安心
- ・新しいお店が多く、便利 など

ワーク② 理想の学校は?

「子どもに学んでほしいこと」「子どもに(私が)教えたいこと」「(私が)小学校を使ってみたいこと」の三つの質問に対して意見を出し合いました。

主要な意見

- ・災害時に役立つ知識を身につけてほしい
- ・自然や生き物に触れる
- ・地域の運動会が開催される
- ・自分の意見を持つことや考えることを学んでほしい
- ・挨拶や思いやりを身につけてほしい など

ワーク③ 新設小学校のタイトルを考えよう!

ワーク①、ワーク②を踏まえて新設小学校のタイトルを考えました。ワークの中では、地域の自然を活用したり、子どもたちの主体性を育むことなどたくさんのキーワード・意見を出し、タイトルが生まれました。

Aグループ

自然と地域にかかわれる学校
主体性をもって体験できる学校

Bグループ

いいとこどり学校



各グループのワークシート

まとめ・学校事例の紹介

倉斗准教授から各グループの発表に対するまとめと、事例紹介をして頂きました。その中では、空間構成や地域との関わり方に特色のある学校について説明がありました。

今後の予定

全3回のWSを行いながら基本計画を策定する予定です。

次回の予定 令和2年11月11日 15:00~17:00

内容については「流山市新設小学校建設 学校づくり通信」で随時お知らせします。



倉斗准教授による発表

学校づくり通信 (仮称) 市野谷小学校

第三号 R2.11.12
流山市

市民参加型ワークショップ(第二回)のご報告

市野谷地区新設小学校の基本計画策定にあたり、市民参加型ワークショップを行いながら学校づくりを行います。第二回ワークショップ(以下WS)として、令和2年11月11日におおたかの森センター会議室にて開催しました。当日は下記の内容で実施され、地区代表者、保護者代表者、有識者、学校関係者、事務局含め総勢 21 人の参加者より、市野谷地区新設小学校建設の趣旨の共有、新設小学校の地域参画の姿についての発表、議論が行われました。

WSの流れ

1. 前回のWSのおさらいとプロポーザル案の説明 ((株)INA新建築研究所)
2. イントロダクション (千葉工業大学 倉斗准教授)
3. グループワーク テーマ:学校のことを考えよう!
「私が生涯学習施設でやりたいこと」「私が学校サポートボランティアとしてやりたいこと」
4. グループごとに発表 (参加者)
5. まとめ (千葉工業大学 倉斗准教授)

前回WSの振り返りとプロポーザル案の説明

第一回と同様に、全員が笑顔マスクを身につけて、第二回 WS は始まりました。

まず、設計担当である(株)INA 新建築研究所 中村氏よりこれまでのWSを振り返り、これらの意見が反映された新設小学校のコンセプト案が示されました。また、プロポーザル時の設計提案を用いて、新設小学校設計の考え方についてご説明頂きました。



倉斗准教授によるイントロダクション

イントロダクション

今回も全体ファシリテーターを務めて下さった倉斗准教授から、学校と地域の関わり方についてご紹介して頂きました。その中では、地域住民が小学生に自分の特技や知識を教える例などが示され、学校への地域参画の大事さについて、興味深いお話を聞くことが出来ました。



グループワーク

前回同様、2グループに分かれ、一人15秒の自己紹介から始まりました。「私が生涯学習施設でやりたいこと」「私が学校サポートボランティアとしてやりたいこと」の二つのテーマで、小学校への地域参画について、それぞれの意見を付箋に貼り出しました。皆さんからたくさん意見を出して頂き、大盛り上がりのグループワークでした。



各グループのワーク・発表の様子

グループワーク 学校の使い方を考えよう!

Aグループの意見(一部)

「生涯学習施設でやりたいこと」

○料理(教室)をやりたい

- ・土曜日か日曜の日中
- ・自立のために男の料理教室
- ・旦那さんを参加させたい
- ・買い物から洗い物まですべて など

「学校サポートボランティアとしてやりたいこと」

○まち探検の引率を手伝いたい

- ・低学年
- ・子どもの様子が見られる
- ・お店の裏側など一緒に学び体験できる など



Bグループの意見(一部)

「生涯学習施設でやりたいこと」

○スポーツ、スポーツ観戦をしたい

- ・体育館、校庭でバレーボールや卓球
- ・気軽に使えるほうが良い
- ・休日(平日夜)、体育館で観戦
- ・パブリックビューイング など

「学校サポートボランティアとしてやりたいこと」

○動物飼育のお手伝い

- ・特に休日
- ・地域の人でフォローする など



各グループのワークシート

まとめ

倉斗准教授から各グループの発表に対するまとめをして頂きました。また中村氏から今回のWSで出した意見を実現するために、利用出来そうな部屋や今後検討したい点についてご説明頂きました。

今後の予定

全3回のWSを行いながら基本計画を策定する予定です。

次回の予定

令和2年12月22日 15:30~17:00

内容については、

「流山市新設小学校建設 学校づくり通信」で
随時お知らせします。



敷地模型を囲んで意見交換

学校づくり通信 (仮称) 市野谷小学校

第四号 R2.12.24
流山市

市民参加型ワークショップ(第三回)のご報告

市野谷地区新設小学校の基本計画策定にあたり、市民参加型ワークショップを行いながら学校づくりを行います。第三回ワークショップ(以下WS)として、令和2年12月22日におたかの森センター会議室にて開催しました。当日は下記の内容で実施され、地区代表者、保護者代表者、有識者、学校関係者、事務局含め総勢 21 人の参加者より、市野谷地区新設小学校建設の趣旨の共有、新設小学校の地域参画の姿についての発表、議論が行われました。

WSの流れ

1. これまでの総括と今後の計画にむけて(流山市)
2. 前回のWSのおさらいと基本計画案の説明 ((株)INA新建築研究所)
3. グループワーク テーマ:学校利用を企画しよう!
4. グループごとに発表(参加者)
5. まとめ(千葉工業大学 倉斗准教授)

前回WSの振り返りと基本計画案の説明

毎回恒例、全員が笑顔マスクを身につけて、第三回WSはスタートしました。まず、これまでのWSの総括と今後の計画に向けて、流山市教育総務部よりお話を頂きました。次に、設計担当である(株)INA 新建築研究所 中村氏より第二回WSの意見が反映された基本計画案のご説明がありました。コンセプトや検討した事項の他、地域の方々が学校に関わりやすいよう、使い方に合わせた地域開放の考え方について話して頂きました。



流山市による今後の計画について

グループワーク

2グループに分かれ、こちらも恒例の一人15秒自己紹介から始まりました。今回のワークは地域開放のイベントを実施すると仮定して、そのイベントのポスターを作成するというものです。ポスターに書き込む内容を議論していく中で、地域が学校を利用する際に、どのような場所があればよいか、誰の協力が必要か等、新しいアイデアや課題の発見をすることが出来ました。完成したポスターは、グループの個性溢れるものとなり、大盛り上がりの、楽しいグループワークでした。



ポスター作りの様子

グループワーク 学校利用を企画しよう!

実際に行うと仮定して、みんなで企画しました!

Aグループ 「男の料理教室」

- ・開催日: 5月1日(GWの土曜日)
- ・場所: 新設小学校のひろば(雨天時: 家庭科室)
- ・キャンプチューバーに講師をお願いしてみる
- ・地元の農家の方にご協力いただく 等

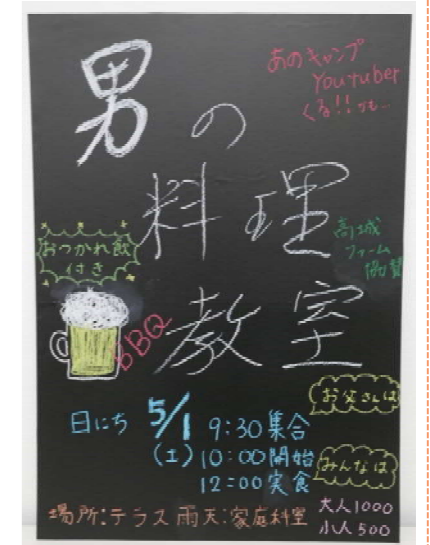
10:00~ 地域のお父さんやおじいちゃんが、BBQを用意する

↓

12:00~ 家族も含めてみんなでお昼ごはん

↓

男性陣で、片付け後、お疲れ様飲み会!



Bグループ 「いちのや いいとこどり祭り」

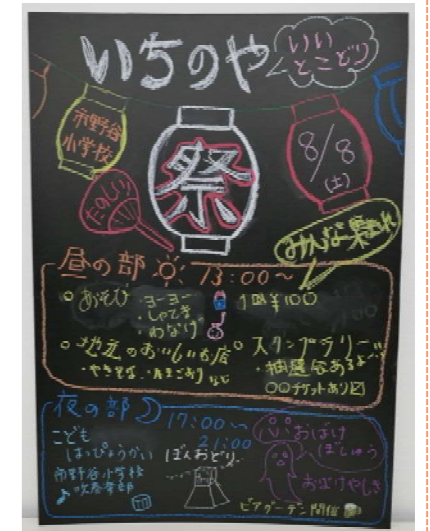
- ・時期: 8月8日(夏休み)
- ・場所: グラウンド、体育館、家庭科室
- ・やること

【昼の部】13:00~

ヨーヨーあそび、しゃてき、わなげ
地元のおいしい屋台、スタンプラリー 等

【夜の部】17:00~

こどもはっぴょうかい、市野谷小学校吹奏楽部
盆踊り、おばけやしき、ピアガーデン 等



各グループで作成したポスター

まとめ

倉斗准教授からWSのまとめをして頂きました。現在学校には様々な課題がある中で、次世代の学校には、地域の方々のサポートが重要であるとお話し頂きました。

今後の予定

今回で基本計画のWSは最終回となります。皆様から頂いた沢山のアイデアやご意見を踏まえながら、基本計画をまとめ、基本設計を行います。基本計画案は市のHP等で掲載する予定です。



ご参加いただきありがとうございました!

学校づくり通信 (仮称) 市野谷小学校

第二号 R2.11.12
流山市

児童ワークショップのご報告

市野谷地区新設小学校の基本計画策定にあたり、市民参加型ワークショップを行いながら学校づくりを行います。「理想の学校を考えるワークショップ」として、流山市立おおたかの森小学校の児童・先生方にご協力頂きました。

WSは下記の内容で実施され、おおたかの森小学校の全学年の児童より、市野谷地区新設小学校建設のための意見をたくさん頂戴しました。

理想の木を育てよう！

千葉工業大学 倉斗綾子准教授と研究室学生のご発案で、児童の理想の学校を聞くWSを、10月から11月にかけて行いました。

三つの質問

- 「学校で〇〇してみたい」
- 「おおたかの森小学校の良いところ」
- 「〇〇がある学校」

まずは1・5・6年生の理想の木

1・5・6年生を対象に、理想の学校についての三つの質問に答えてもらいました。考えてもらった意見は、葉っぱの形の付箋に書いて、木の台紙に貼りつけました。子供たちからたくさんの意見が集まり、理想の木が大きく育ちました。



たくさん葉っぱが集まり、立派な理想の木が出来ました！

意見の一部をご紹介

他学年交流に関する意見

- ほかの学年の人と遊びたい
- 全校生徒でおにごっこ
- ほかのクラスと交流したい

体験に関する意見

- 林間学校をしたい
- 学校でお泊りがしたい
- みんなでピクニックにいきたい

自然に関する意見

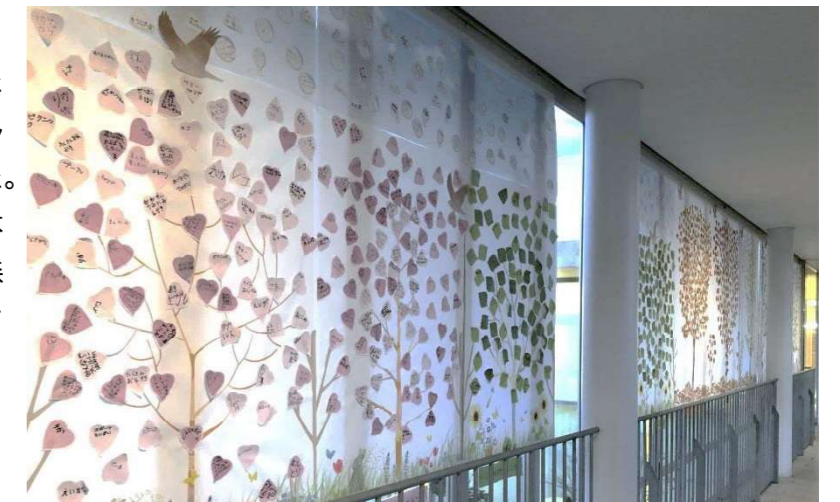
- いろいろな植物や動物を育ててみたい
- たくさん虫取りをしたい
- 学校の周りに自然が多くて好き



一年生の意見の様子

2・3・4年生も参加しました！

2・3・4年生には、1・5・6年生が作った理想の木を見て、班ごとに、意見を出し合ってもらい、理想の木に追加しました。現在、全学年の意見が書かれた、12本のすべての理想の木が、おおたかの森小学校の渡り廊下に並べて掲示されています。



渡り廊下の様子

今後の予定

今回の児童へ行ったWSの意見を参考に基本計画を策定する予定です。

また、本計画では地域住民へのWS(全三回)を併せて行っております。

市民参加型ワークショップ:次回の予定 令和2年12月22日 15:30~17:00

内容については「流山市新設小学校建設 学校づくり通信」で随時お知らせします。

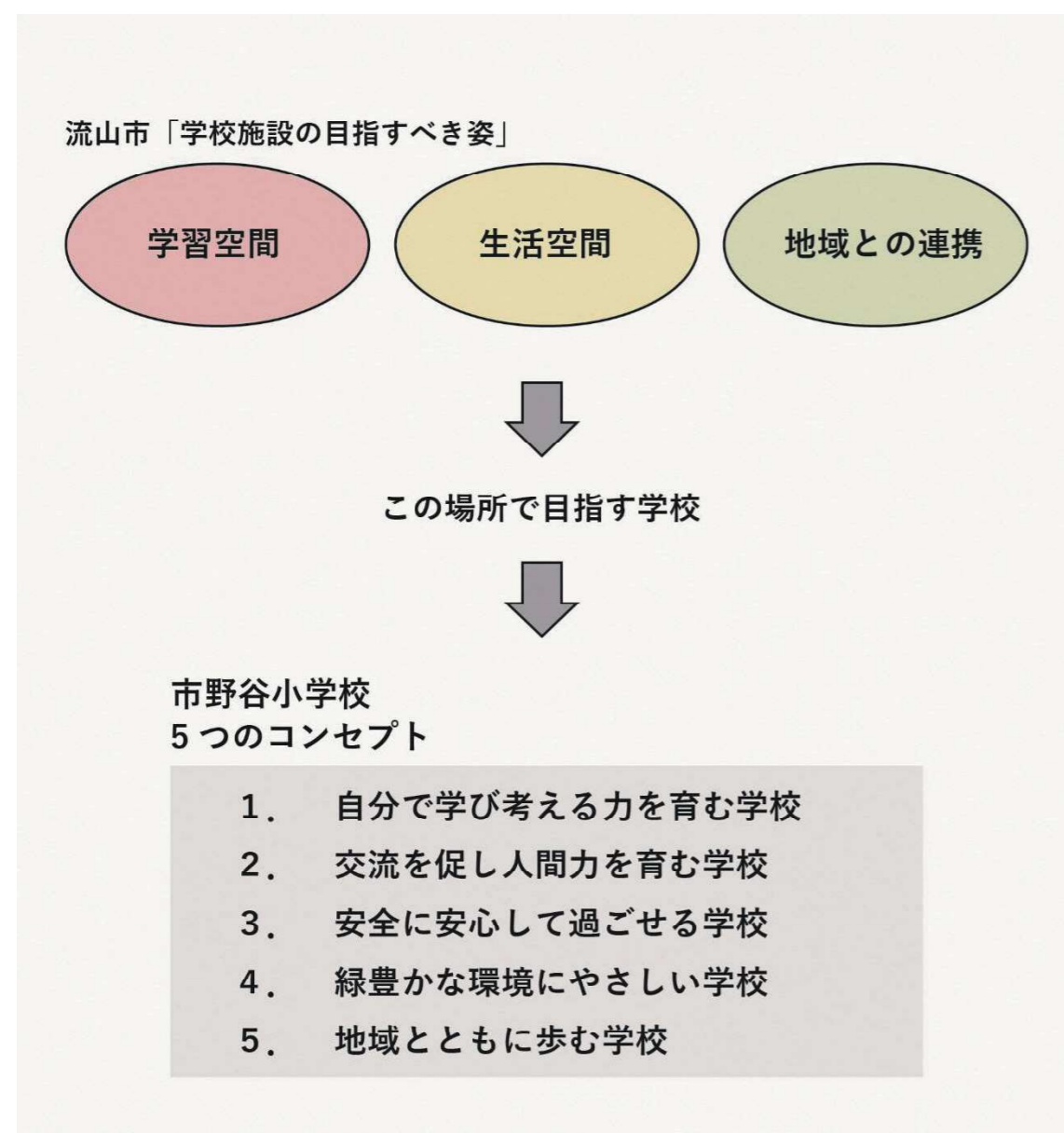
新しい学校づくりに向けての整備方針

1 学校施設の目指すべき姿の実現

施設の整備における基本的な方針としては、学校づくりの視点として、流山市の学校教育のあり方、社会経済状況に対応するために、「流山市学校施設の個別施設計画」からその整備方針を定めていきます。

2 新設小学校のコンセプト

「流山市学校施設の個別施設計画」に定める学校施設の目指すべき姿を実現するための整備方針を踏まえ、以下のコンセプトに基づいた学校づくりを進めます。



学校整備計画の策定

1 学校施設等の計画方針

市野谷小学校のコンセプトから、各項目に対する施設の計画方針を策定しました。この方針を踏まえ、諸室や配置の計画を行います。

市野谷小学校のコンセプト	新しい学校施設の計画方針
自分で学び考える力を育む学校 ①主体的に学ぶことが出来る多様な学習 ②情報化社会に対応した ICT 教育	(1) 個人学習やグループ学習など様々な形で学習できる、多様な学習空間を設け、児童の主体性を育む空間づくりを行います。 (2) タブレット型端末などの ICT 教育環境の充実した設備を導入します。
交流を促し人間力を育む学校 ①他学年との交流が生まれやすいゾーニング ②コミュニケーション力の向上	(3) 互いの活動が見える空間とすることで、他学年との交流が生まれやすい空間づくりを行います。 (4) コミュニケーション能力の向上のために様々な単位で対話・活動が出来るスペースを設置します。
安全に安心して過ごせる学校 ①豊かな心と健やかな身体を育てる安全な環境 ②避難所機能を備えた地域の防災拠点	(5) 豊かな心と健やかな体を育成できる空間や屋外施設を設けるとともに、安全で安心な空間づくりを行います。 (6) 地域の防災拠点として、充実した避難所機能を整備します。学校再開後も明確な管理区分とすることで災害時も安心な学習環境を確保できる配置とします。
緑豊かな環境にやさしい学校 ①敷地内を緑化した緑豊かな環境 ②自然エネルギーを活用し、環境に配慮した校舎	(7) 敷地内は積極的に緑化し、校舎環境はもとより、地域環境、景観の向上を図ります。また、自然採光、自然通風など自然のエネルギーを活用し、環境への負荷を低減します。
地域とともに歩む学校 ①新設校として新しいまちの拠点 ②地域、家庭、学校の連携を支える学校 ③地域に開かれた生涯学習としての場 ④他校との円滑な交流 ⑤将来の人口増減に対応するフレキシブルな計画	(8) 地域とともにある学校として、地域に開かれた施設づくりを行うとともに、学校の複合的な利用を可能にするために管理区分が明確な学校づくりを行います。 (9) 他校との連携を想定した配置とします。 (10) コンパクトなゾーニングとし、増築スペースを確保します。また将来の施設転用しやすい構成とします。

1. 敷地概要・計画概要

(1) 敷地概要

所在地	： 流山市市野谷135番地ほか	
敷地面積	： 約20,000㎡(土地区画整理事業により学校用地を整備)	
都市計画区域	： 流山都市計画区域	
区域区分	： 市街化区域	
用途地域	： 第一種住居地域	第一種低層住居専用地域
建ぺい率	： 60%	60%
容積率	： 200%	150%
高さ制限	： 第一種高度地区(20m)	指定なし
日影規制	： 4h-2.5h/4m	4h-2.5h/1.5m
防火指定	： 法22条区域	
接道	： 北側-幅員18m(都市計画道路3・4・5加市野谷線) 東側-幅員10m 西側-幅員6m(予定) 南側-幅員10m(予定)	

(2) 計画概要

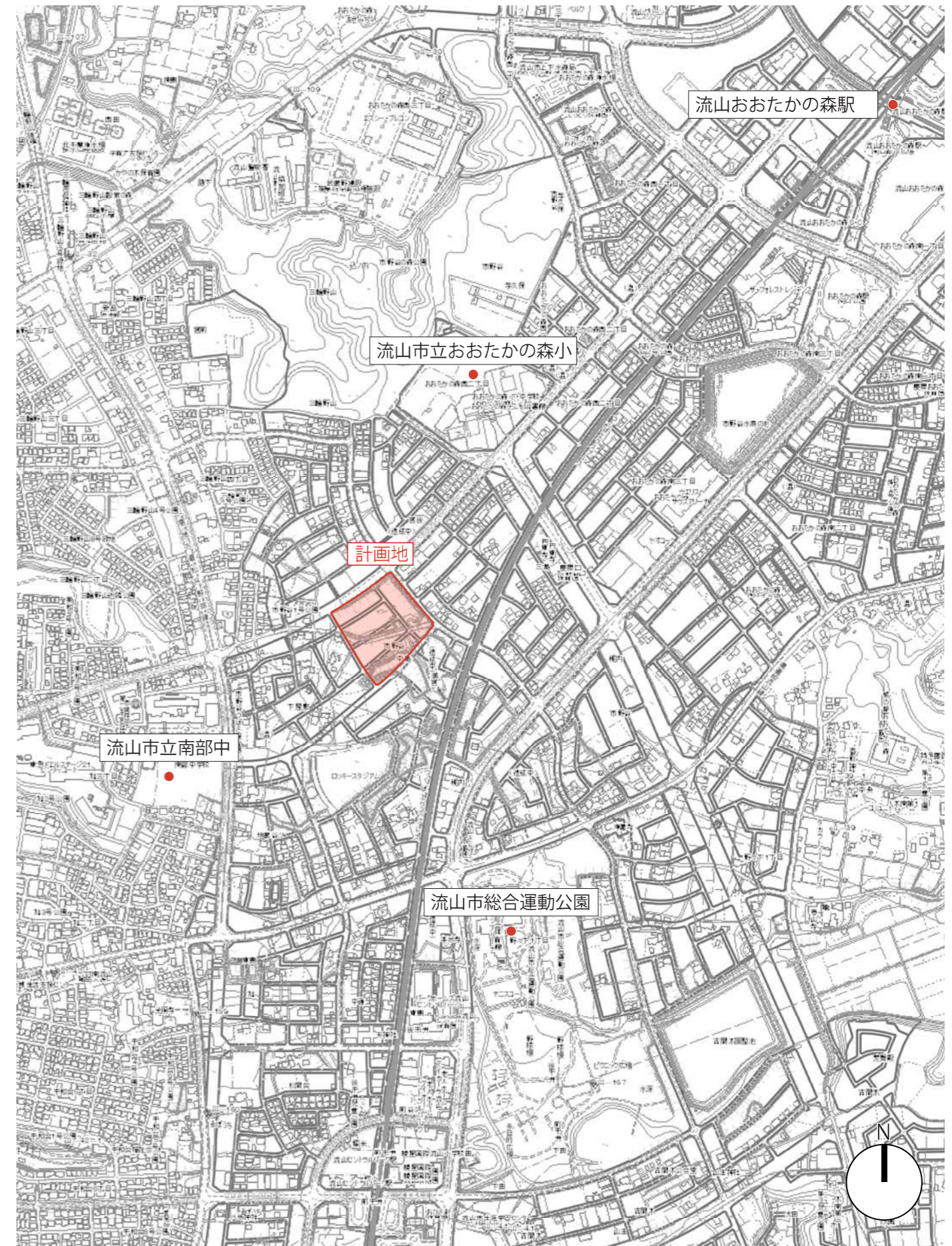
主用途	： 小学校	階数	： 地上4階
建築面積	： 約4,900㎡	高さ	： 約16.5m
延べ面積	： 約12,000㎡	構造	： 鉄筋コンクリート造

(3) 学校規模

おおたかの森小学校区の約半数である1000人程度とし、普通教室27学級・特別支援学級4学級の学校規模を想定しています。



計画地拡大図



案内図 S=1/10000

2. コンセプト・基本方針

(1) 学校施設等の計画方針

(仮称)市野谷小学校のコンセプト

自分で学び考える力を育む学校

- ①主体的に学ぶことが出来る多様な学習
- ②情報化社会に対応したICT教育



新しい学校施設の計画方針

- (1) 個人学習やグループ学習など様々な形で学習できる、多様な学習空間を設け、児童の主体性を育む空間づくりを行います。
- (2) タブレット型端末などのICT教育環境の充実した設備を導入します。

交流を促し人間力を育む学校

- ①他学年との交流が生まれやすいゾーニング
- ②コミュニケーション力の向上



- (3) 互いの活動が見える空間とすることで、他学年との交流が生まれやすい空間づくりを行います。
- (4) コミュニケーション力の向上のために様々な単位で対話・活動が出来るスペースを設置します。

安全に安心して過ごせる学校

- ①豊かな心と健やかな身体を育てる安全な環境
- ②避難所機能を備えた地域の防災拠点



- (5) 豊かな心と健やかな体を育成できる空間や屋外施設を設けるとともに、安全で安心な空間づくりを行います。
- (6) 地域の防災拠点として、充実した避難所機能を整備します。学校再開後も明確な管理区分とすることで災害時も安心な学習環境を確保できる配置とします。

緑豊かな環境にやさしい学校

- ①敷地内を緑化した緑豊かな環境
- ②自然エネルギーを活用し、環境に配慮した校舎



- (7) 敷地内は積極的に緑化し、校舎環境はもとより、地域環境、景観の向上を図ります。また、自然採光、自然通風など自然のエネルギーを活用し、環境への負荷を低減します。

地域とともに歩む学校

- ①新設校として新しいまちの拠点
- ②地域、家庭、学校の連携を支える学校
- ③地域に開かれた生涯学習としての場
- ④他校との円滑な交流
- ⑤将来の人口増減に対応するフレキシブルな計画



- (8) 地域とともにある学校として、地域連携室や通級指導教室の設置など、学校の複合的な利用を可能とし、管理区分が明確な学校づくりを行います。
- (9) 円滑に小中連携活動が実施できる配置とします。
- (10) コンパクトなゾーニングとし、増築スペースを確保します。また将来の施設転用がしやすい構成とします。



普通教室イメージ図



多目的スペースイメージ図



鳥瞰イメージ図

3. 配置計画の基本方針

(1) 基本的な考え方

- ・敷地の北側に校舎を配置し、南側に明るく広いグラウンドを確保します。
- ・校舎はコンパクトにまとめ、敷地を有効に活用します。
- ・敷地周囲から離隔を確保した校舎配置とし、近隣への圧迫感、日影の影響に配慮します。

(2) 北側校舎エリア

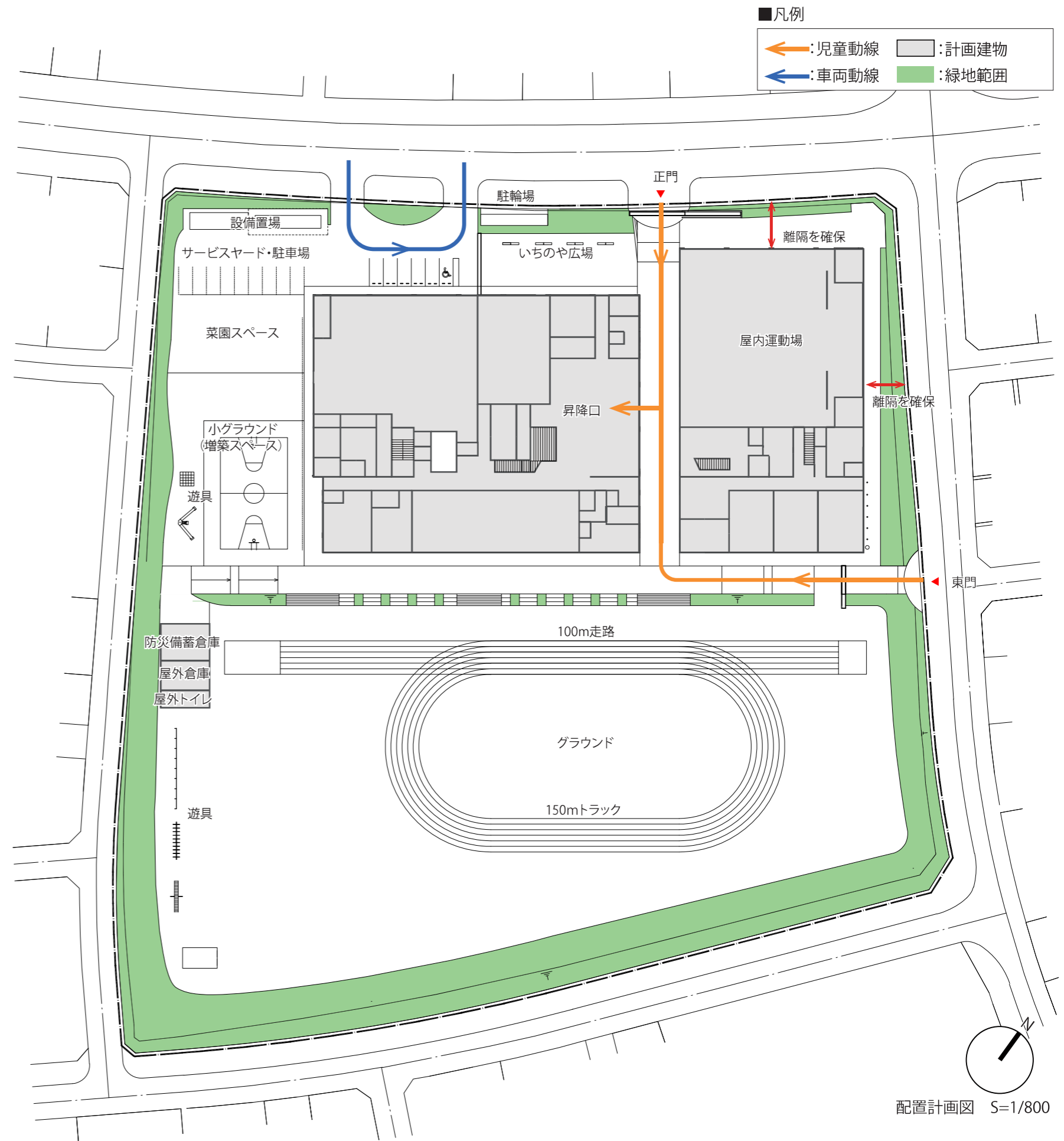
- ・校舎は、教室への採光に配慮した配置とします。
- ・正門に面し、いちのや広場を配置します。防災井戸やかまどベンチを配置し、災害時には屋内運動場と合わせて、災害支援の拠点となります。
- ・校舎西側には、小グラウンドを配置します。低学年向け遊具、菜園スペースを設け、グラウンドとの活動のすみ分けを可能とします。
- ・小グラウンドは、児童数増加の際は、増築スペースとして活用します。このため、将来の工事動線に配慮した位置とします。
- ・校舎北側にサービスヤード、駐車場、駐輪場を配置します。

(3) 南側グラウンドエリア

- ・グラウンドは日当たりが良い敷地南側に配置します。
- ・日常の利用や行事での活動に対応できる十分な大きさを確保します。
- ・校舎からの見通しを確保し、児童の様子を見守りやすい環境とします。
- ・周囲には遊具、屋外倉庫、屋外トイレを配置します。

(4) 動線計画

- ・児童と車両の動線を分け、児童の登下校等、日常の安全に配慮します。
- ・正門、東門の2ヶ所に校門を設けます。
- ・昇降口は校舎中央に配置し、各門からの登下校のしやすさと、グラウンドへのアクセスに配慮します。



4. 平面計画

(1) 基本的な考え方

- ・明快なゾーニングでわかりやすく、単純な動線とします。
- ・1階は管理諸室のほか、屋内運動場や多目的ホール、地域連携室など地域開放諸室を主として配置します。
- ・2～4階は普通教室、特別教室のエリアとし、学習諸室をまとめて配置します。
- ・地域開放諸室や、利用時間帯の異なる学童諸室は、動線やセキュリティ区分に配慮します。

(2) 普通教室

- ・2～4階の南面に27教室を配置し、自然採光、通風を確保します。
- ・多目的スペースを隣接し、一体的に利用することで、一斉授業だけでなく、チーム・ティーチング等の様々な学習形態に対応可能です。さらに、感染症対策として、児童同士の離隔を確保することも可能です。
- ・特別支援学級は、2階の南面に4教室を配置します。普通学級と同一階に配置し、日常的な交流を促します。

(3) 特別教室

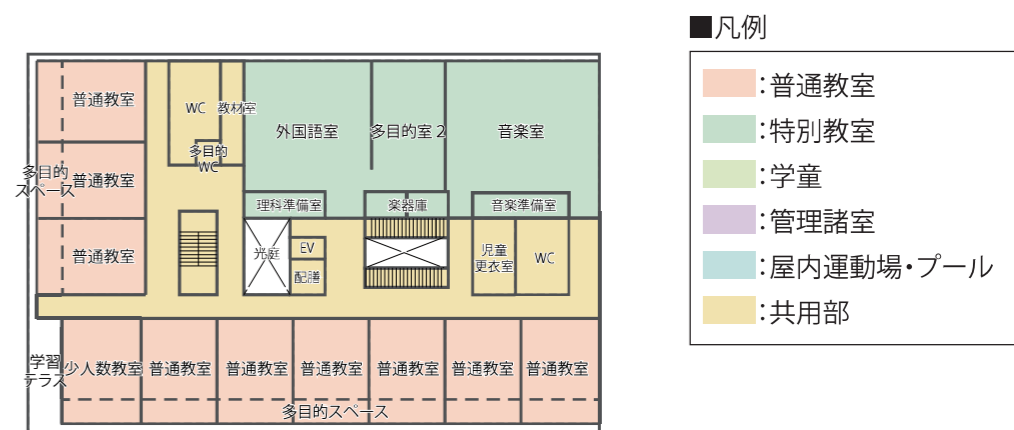
- ・2～4階の北側に9教室を配置します。
- ・特別教室は学習の領域を横断したものとなるよう、関連のある教科の諸室をまとめて配置します。

(4) 管理諸室

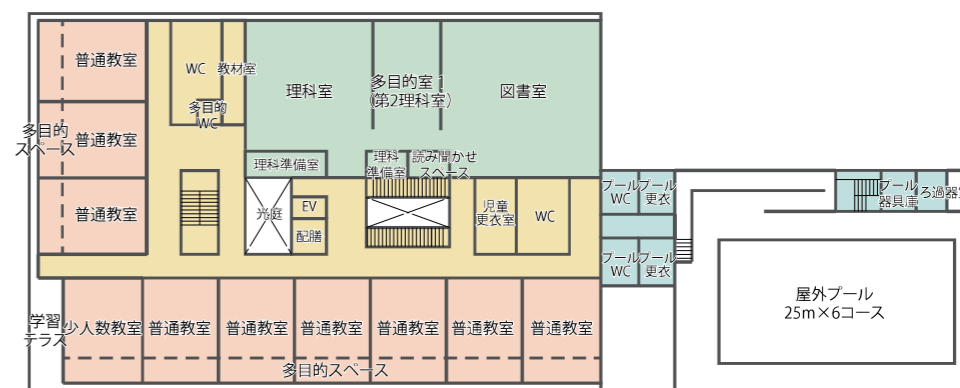
- ・1階にまとめて配置します。
- ・きめ細やかな指導や円滑な学校運営の実現のため、職員室や校長室、事務室を一つのゾーンにまとめます。校務センターとしてひとまとまりの空間の中で相互の関係に配慮した諸室配置とします。
- ・職員室、校長室、保健室はグラウンドを見渡すことが可能な位置とし、子どもたちの日常に目が行き届く配置とします。
- ・事務室は日常的に人の出入りが管理できる位置に配置します。
- ・保健室に隣接してカウンセリングや個別相談のための相談室を配置します。
- ・会議室は職員室に隣接配置とし、教職員が利用しやすい配置とします。

(5) 屋内運動場・プール

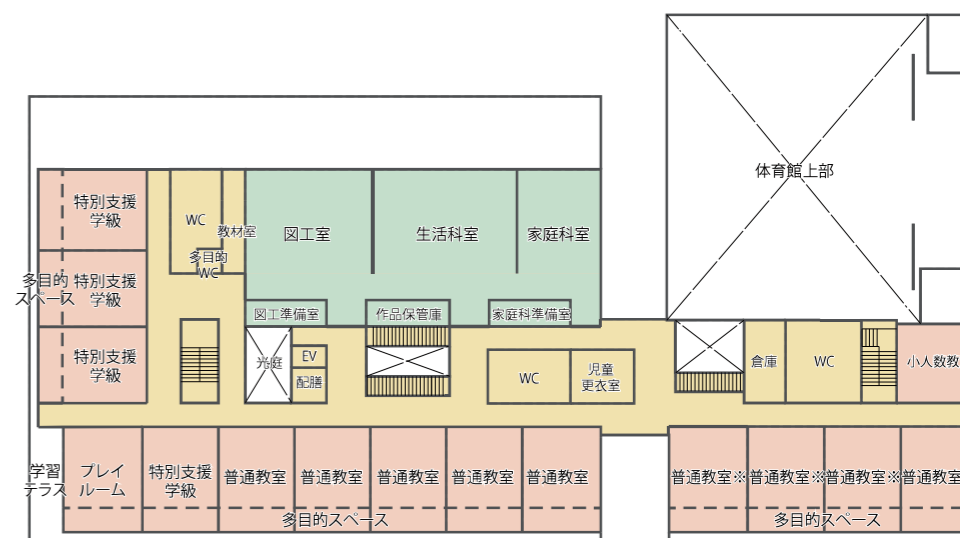
- ・屋内運動場は、ピロティを挟んだ1階の北側に配置します。地域開放利用や、避難所利用時に学校エリアとセキュリティ区分しやすい配置とします。
- ・プールは、敷地の有効活用及び、周囲の視線に配慮し、屋上に配置します。



4階ゾーニング図

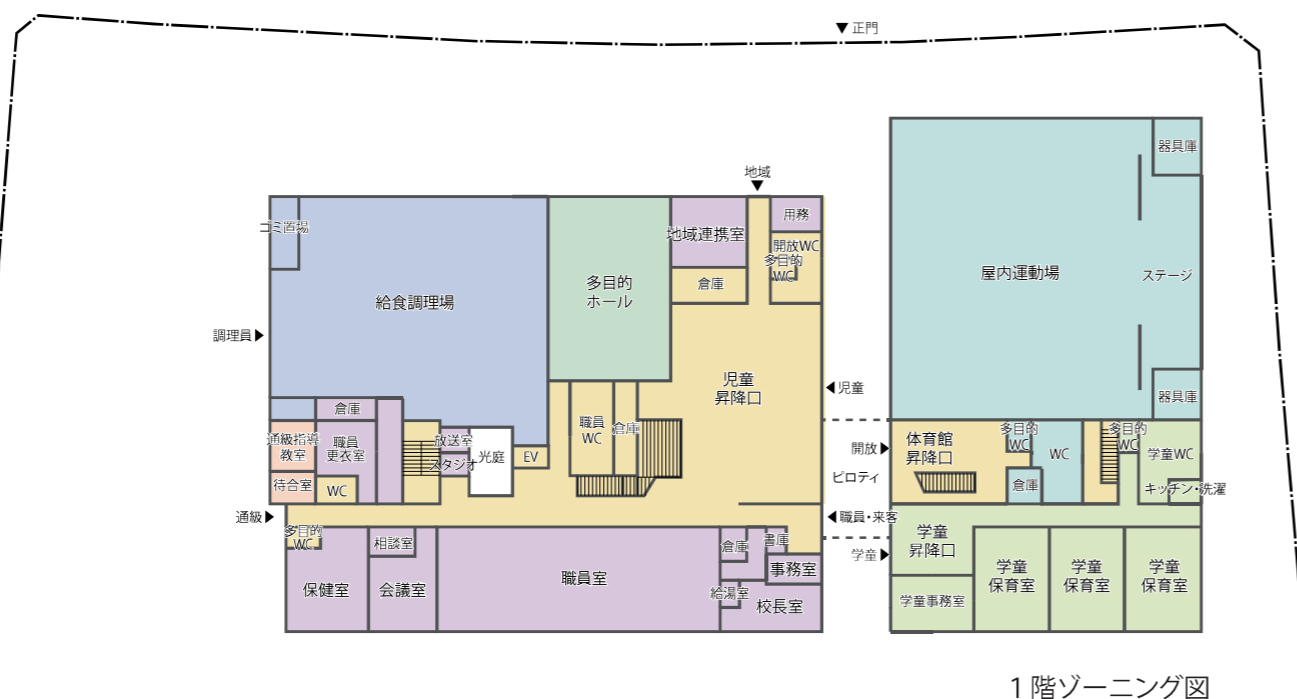


3階ゾーニング図



(※)学童保育室と兼用

2階ゾーニング図



1階ゾーニング図

5. 立面計画

(1) 周辺環境との調和

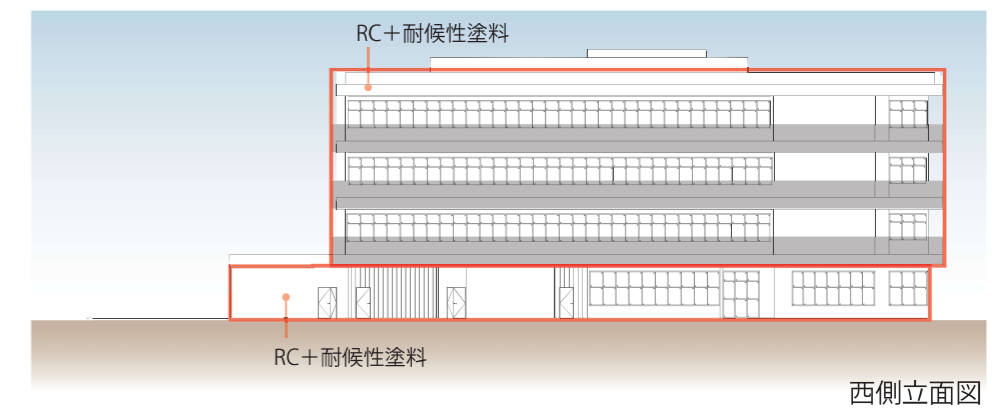
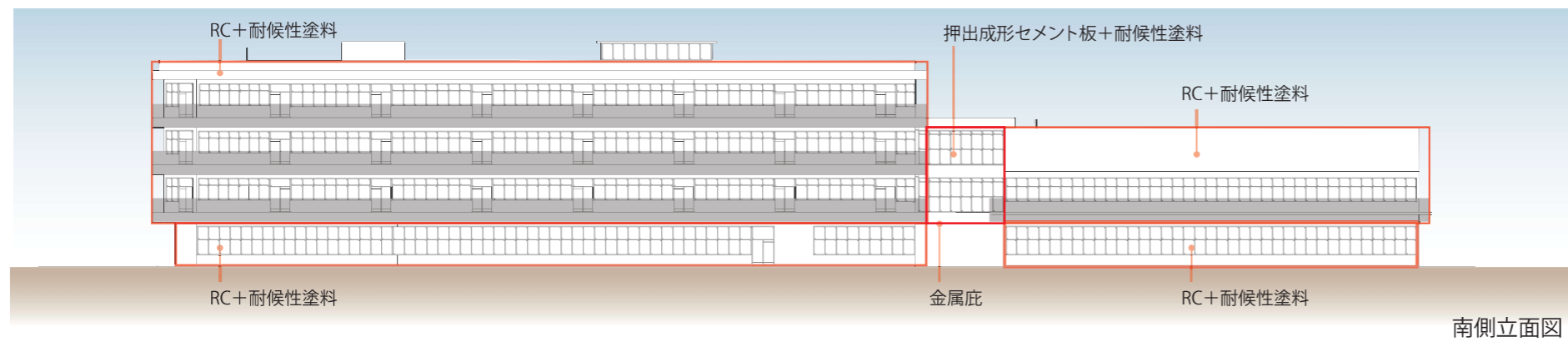
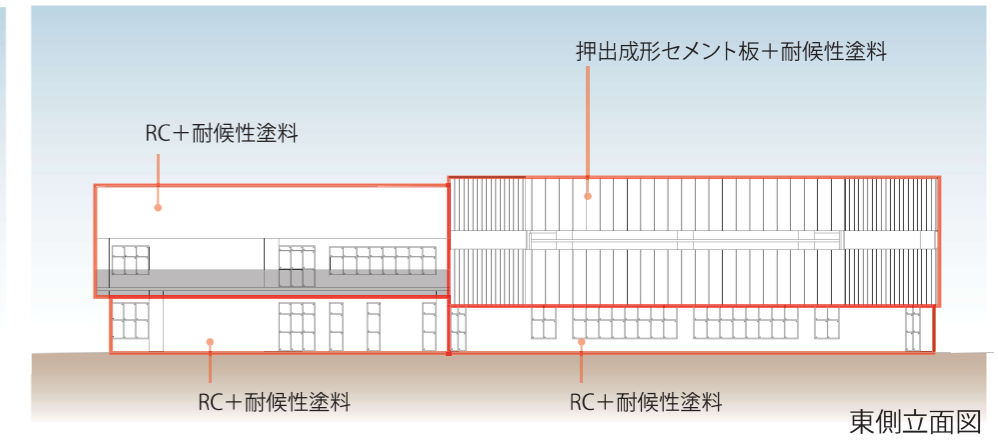
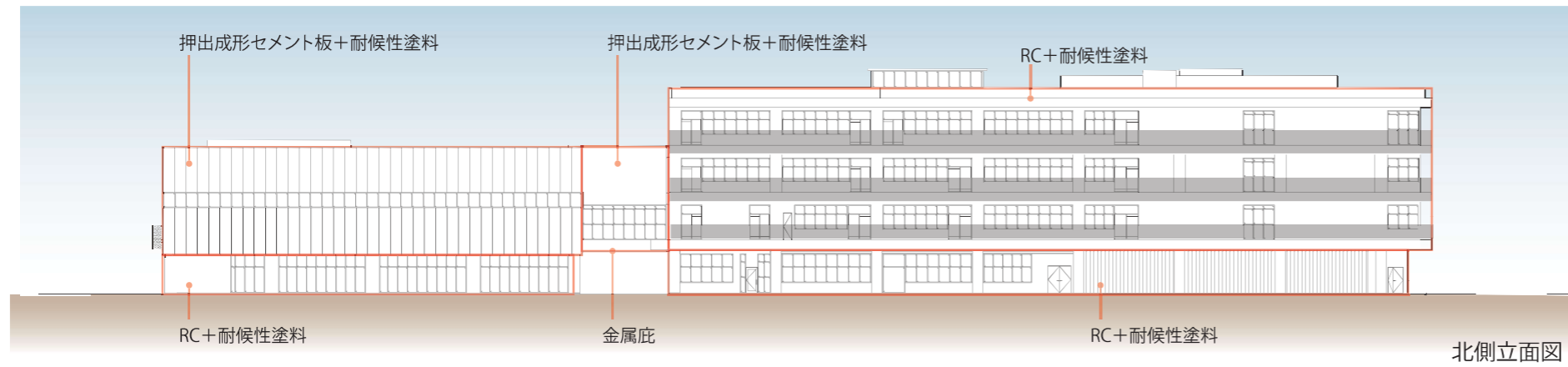
- ・4階建校舎は、敷地境界線から十分に離隔をとり、近隣への圧迫感を軽減します。
- ・大きな開口部からは、児童の活動の様子が感じられ、明るく開かれたイメージをつくります。

(2) メンテナンス性への配慮

- ・耐久性の高い外装材を選定します。清掃性を考慮したバルコニー、雨がかりに対する庇など、長く使える計画とします。



※ 表記の色は範囲を示すための着色です。
 実際の色調とは異なります。
 ※ 外観の形状・色彩計画については検討中です。



6. 防災計画・事業継続計画

(1) 基本的な考え方

・地域の避難所として、安全性の確保、必要な機能の強化、円滑な運営を可能とするスペースの確保、教育活動の早期再開を踏まえたゾーニングとし、バリアフリーに配慮した計画とします。

①安全性の確保

・建物全体の耐震性能を重要度係数1.25として計画します。

②必要な機能の強化

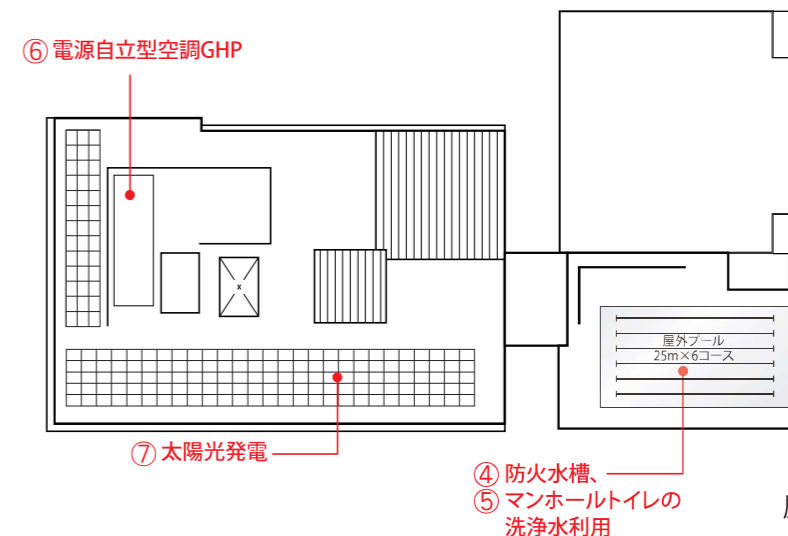
・マンホールトイレの整備、プール水の災害用水利への活用、防災備蓄倉庫等の設置を行います。

③円滑な運営を可能とするスペースの確保

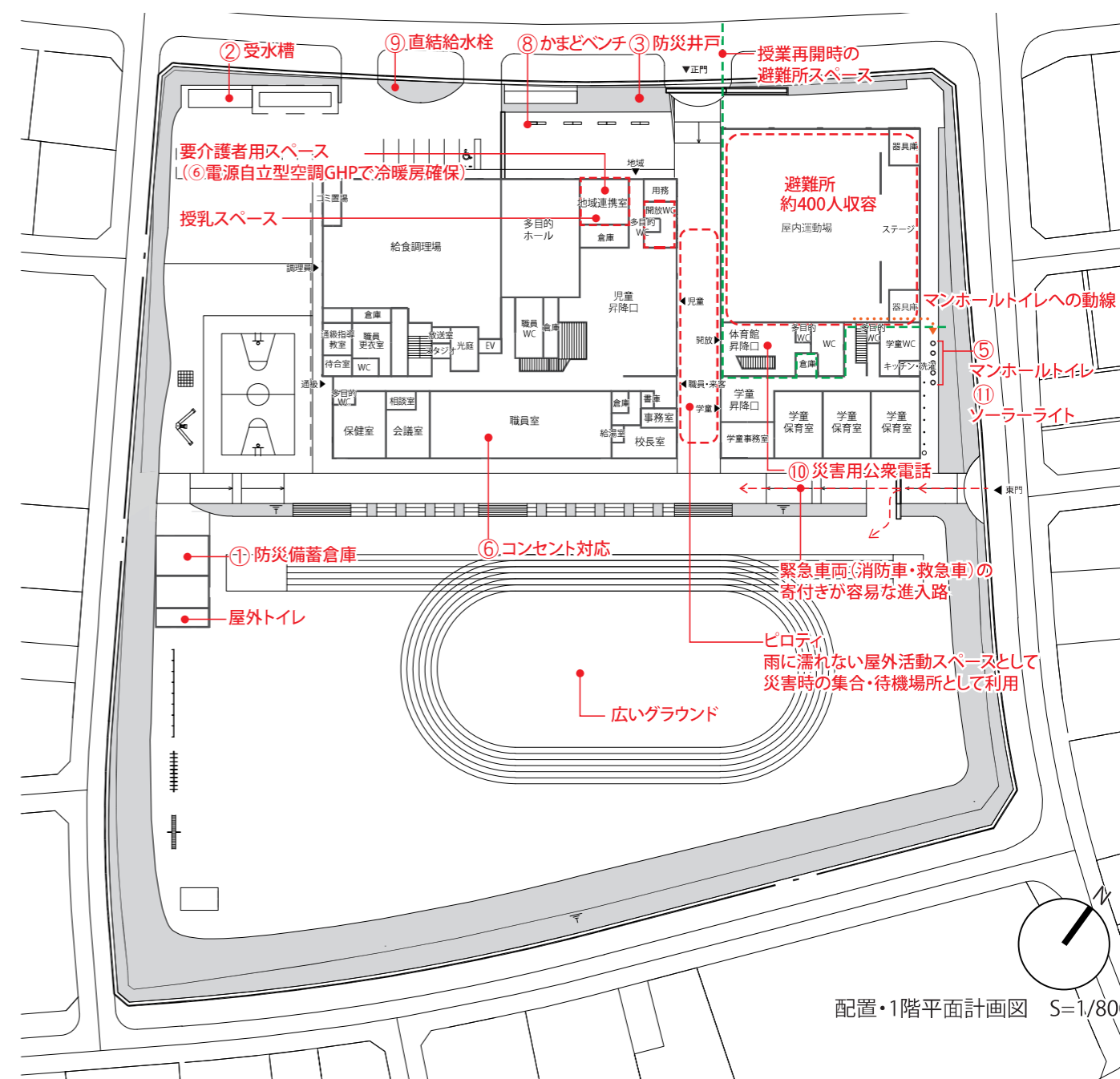
・避難・居住スペース、要介護者用スペース、炊き出しスペース、物資保管スペースと、避難所として必要なスペースを予め確保します。避難所としての想定収容人数は約400人とします。

④避難所利用時の授業継続性の確保

・教育活動の早期再開のため、避難所部分と学校機能を明確に区分します。



屋根伏計画図 S=1/800



配置・1階平面計画図 S=1/800

防災機能の強化	
① 防災備蓄倉庫	物置、資機材の保管。外部から利用しやすいようグラウンドに設置
② 受水槽(受水槽直結型応急水栓)・緊急遮断弁	断水時の水源確保
③ 防災井戸	手動式とし、停電時にも利用可能
④ 防火水槽	プール水を利用
⑤ マンホールトイレユニット	下水道直結型の防災仮設トイレを設置
⑥ 電源自立型空調GHP	職員室へのコンセント給電、避難弱者の避難エリアへの空調
⑦ 太陽光発電	屋上に設置
⑧ かまどベンチ	炊き出しに利用
⑨ 直結給水栓	停電時にも利用可能な水栓を。屋外に散水栓や水栓柱を設置
⑩ 災害用公衆電話	昇降口に災害時特設公衆電話端子盤を設置
⑪ ソーラーライト	太陽光発電による屋外灯

7. 環境配慮計画

(1) 基本的な考え方

- 環境負荷の低減や自然との共生に配慮し、その仕組みや効果を環境教育に活用するエコスクールを目指して、学校施設の整備を行います。

(2) テーマ：五感で体感するエコ

- 児童の環境意識の向上を目指し、エコメニューを見える化するなど、内容・効果を五感で感じることのできる工夫をすることで、実感を持って環境について学ぶことのできる計画とします。

(3) 環境負荷低減手法(エコメニュー)

① 熱負荷の抑制と自然エネルギーの利用

- 高断熱：屋根、外壁の高断熱化を行います。窓ガラスは複層ガラスとします。
- 自然採光・通風：積極的に自然採光・通風を取り入れます。自然の風力と室内外の温度差により、建物全体で効率的に換気できるよう、開口部を配置します。
- 日射遮蔽：庇、バルコニー、緑のカーテンにより、夏季の直射日光を遮蔽し熱負荷を軽減します。
- 太陽光発電：屋上には太陽光発電パネルを設置し、自然エネルギーを活用します。

② 高効率設備システムの採用

- 高効率機器：省電力でCO2を削減できる効率の良い空調機器を採用します。
- 高効率照明：LEDを採用し、電力消費量の低減を図ります。
- 照明点滅システム：トイレなどに人感センサーを設置し、非使用時に消灯することにより電力消費を削減します。
- 節水器具の採用：トイレに節水型器具や自動水栓などを採用し、水資源を節約します。

③ 維持管理性の向上

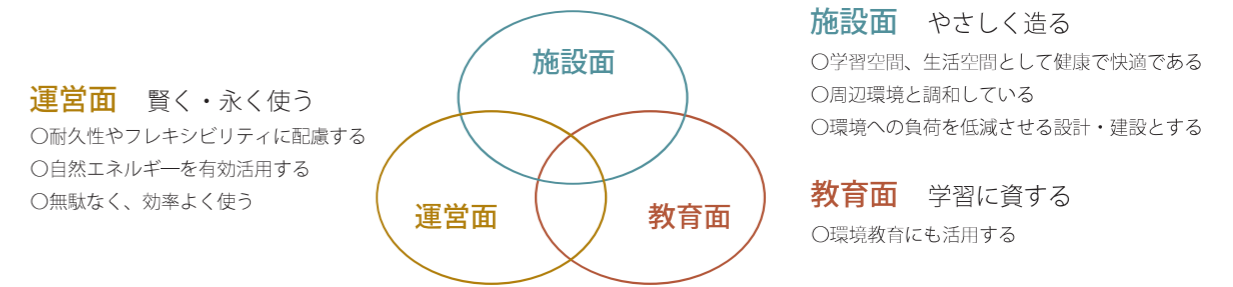
- 施設計画：長くきれいに使い続けることで、環境への負荷を低減します。建物外周にはバルコニーを設置し、維持管理、清掃がしやすい計画とします。また、汚れにくく互換性に優れた仕上材料の選定を行います。

(4) 環境教育

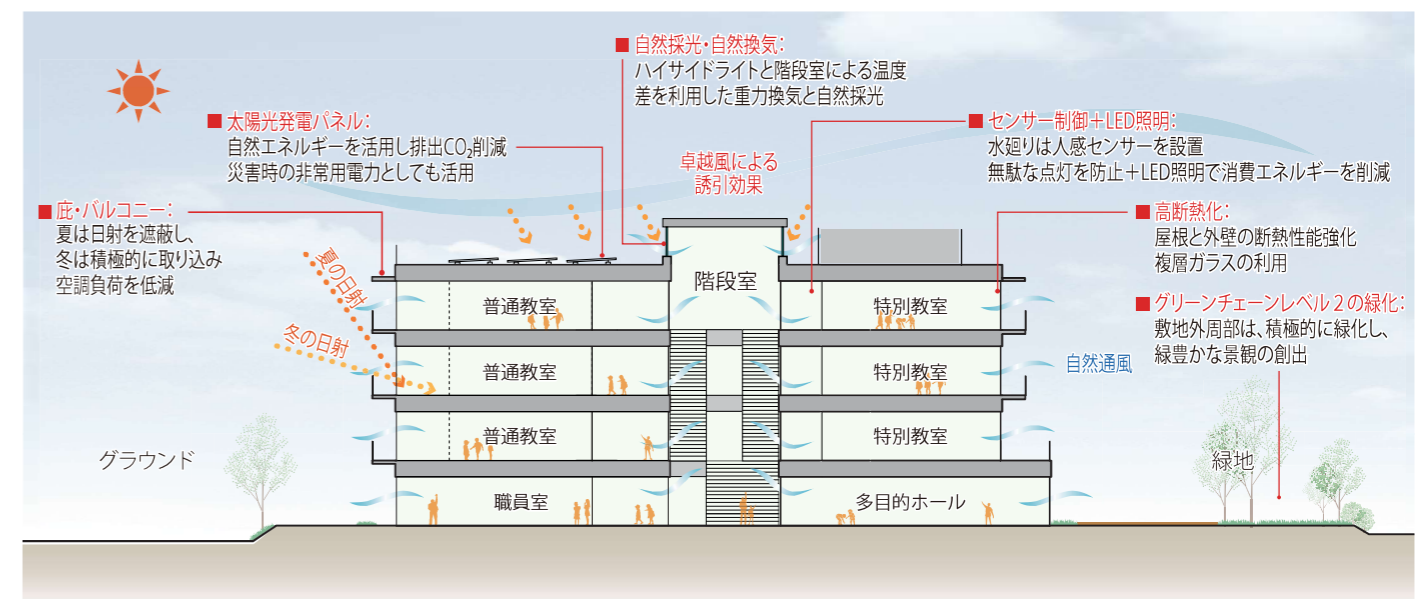
- エコメニューを見える化し、学校全体を環境教育に活用できるように整備します。

エコスクールの考え方

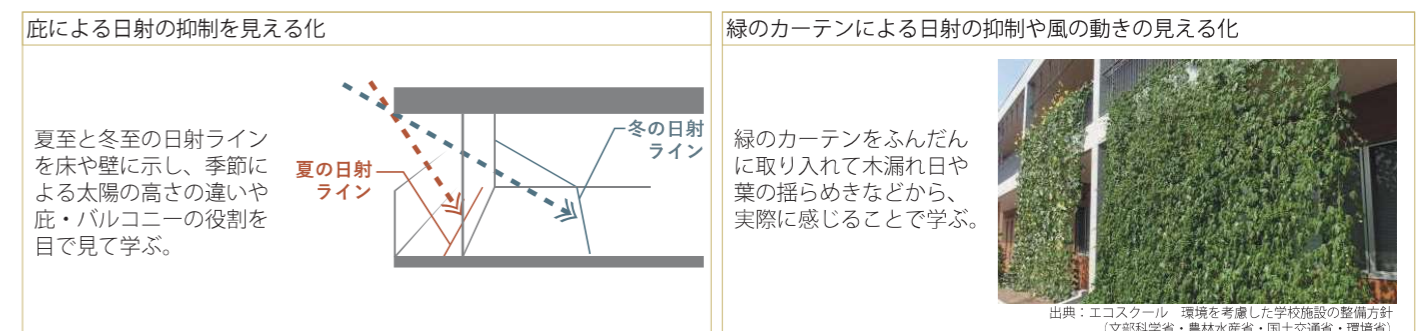
エコスクールとは、環境を考慮した学校施設のことです。エコスクールは、環境負荷の低減に貢献するだけでなく、それを教材として活用し、児童生徒の環境教育に資するものであり、地域の環境教育の発信拠点としても先導的な役割を果たします。エコスクールの整備に際しては次の三つの点に留意することが必要です。



エコスクール 環境を考慮した学校施設の整備方針 (文部科学省・農林水産省・国土交通省・環境省) より抜粋



パッシブメインなエコスクールイメージ



(仮称)流山市立市野谷小学校建設スケジュール(予定)

【資料③】

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	4月
設計業務	基本計画		基本設計	実施設計					
工事					校舎建設工事・外構工事				
									開校

(仮称) 流山市立市野谷小学校 概算事業費

令和3年6月現在

(単位：億円)

区分	総事業費	財源内訳			
		国・県の負担額		地方債	市の負担額
		国費	県費		一般財源
設計業務委託費	2.00	0.00	0.00	1.10	0.90
工事監理業務委託費	1.40	0.00	0.00	1.05	0.35
校舎建設費	47.50	14.20	0.10	25.35	7.85
外構工事費	2.50	0.20	0.00	1.73	0.58
合計	53.40	14.40	0.10	29.22	9.68
		14.50			

※校舎建設費は、体育館、プール、給食室、学童クラブ、防災設備を含みます。

※総事業費及び財源内訳は、令和3年6月現在の計画のため、変動する場合があります。

※用地取得費は、今後、土地区画整理施行者（千葉県）と協議の上、決定します。

ご質問・ご意見